

### 都市のイメージ戦略

谷 新一 議員

**問** 都市のイメージ戦略として、定点のライブカメラを設置して、ふじみ野市の「今」を発信する考えは。

**答** 他市では市内3カ所にライブカメラを設置し、ホームページで見られるようにして好評とのこと。ただしプライバシー保護の観点から一定の配慮が必要である。

### 高齢者世帯の防火対策

**問** 消防と高齢者福祉との情報共有、防火訪問等の連携は。

**答** 防火等の配慮が必要な一人暮らしの高齢者に対しては、火災報知器・自動消火器等の給付制度があり、心疾患等の疾病がある一人暮らしの方については、消防署への緊急通報システム

を貸与している。

なお、消防では春と秋に各100件程度の防火診断を実施しているが、今後は介護従事者等にも、高齢者宅を訪問する機会に居住環境の確認をお願いするなど、連携を図っていく。

### 効率的な道路修繕を

**問** 道路工事と地下埋設工事との連携は。

**答** 毎年5月に道路占有者会議を開催して、埋設工事時期と道路本復旧時期等の調整を図っている。

### 高齢者を支える地域づくりを

小林憲人 議員

**問** 地域支援コーディネーターの育成など、人的確保は今後どのように行っていくのか。

**答** 生活支援を行う団体と協議体を設け、ふさわしい人材の確保に努める。

### SNSを活用しごみ量縮減を

**問** 本市は、1人あたりのごみ排出量が少な

い市、埼玉県内1位となった。今後もごみ量縮減を持続するため、清掃活動をSNSで共有し可視化するごみ拾いアプリを活用しては。

**答** ごみのないまちの推進に役立つツールと考える。今後、他市の事例を参考に研究する。

### 緑の美しいまちなみを

**問** 市の計画では、緑の空間のネットワーク化がうたわれているが実現していない。街路

樹等に個人が出資して植樹を行う、マイ・ツリー制度を導入しては。  
**答** 緑を増やす取り組みとして、多くの方が積極的に参加するマイ・ツリー制度は有効。検討する。  
**命の大切さが伝わる取り組みを**  
**問** 命の大切さを実感する教育として、赤ちゃんふれあい事業を中学生に実施する地方公共団体が増えている。実施の検討を。  
**答** 安全面への十分な配慮が必要。今後、研究を進めつつ、現在行っている様々な体験の充実に努めていく。

### 交通安全対策

川畑京子 議員

**問** 通学路の危険箇所のカラー表示や標識の設置等、対策を工夫して進めるべきでは。

**答** グリーンベルトが可能な箇所は設置を進めながら、駒西小学校周辺地域をETC2.0

の相互通信・データ蓄積機能を活用し、路面を立体的に見せるイメージハンブやポストコーンなどの手法により、通学路の安全を確保する取り組みを検討している。

**問** 高齢者の転倒防止のため、歩道のバリアフリー化などの安全対策を。

**答** ケヤキやサクラといった街路樹の根の影響により、歩道の隆起した段差の解消を行った。引き続き高齢者に配慮した歩行空間の安全に努めていく。

### 子どもの貧困対策

**問** こども食堂に対する支援・検討は。

**答** 本年実施する子ども貧困対策推進計画策定におけるアンケートにおいて、子どもの食事に関する調査を予定している。調査結果を踏まえ、他の地域での取り組みを参考に検討していく。

### 第二次情報化基本計画の進捗と管理

島田和泉 議員

**問** 管理職、職員のICT教育について年次計画などを基に取り組みや効果などはどのように評価しているのか。

**答** 初任者研修、課長相当職対象の集合研修、eラーニング研修、全職員対象の情報セキュリティセルフチェックなどを実施し、研修後に効果測定を行っている。

### 産業分野等におけるICT活用を

**問** 地域経済分析システム（REAS）の有効活用を。

**答** 国が提供する多種多様なビッグデータで地方自治体の効果的な政策立案、実行、検証を支援するものだが、具体的な利用はできていない。今後研究し利用したい。

### 学校運営におけるICT導入効果

**問** 校務支援システムで実現の必要性が高い機能は。

**答** 出席簿、通知表、指導要録、備品管理等のシステム化を検討。諸表簿等を容易に作成できる環境が業務負担軽減につながると考え

### 防災・減災へのICT活用を

**問** 自主防災組織の設置推進と情報伝達の確立を。

**答** 各自治組織に1つの自主防災組織を設置しているが、自治組織の加入率低下で防災力も低下が危惧され改善を検討したい。

### 障がい者相談支援の充実を進める

鈴木啓太郎 議員

**問** 障がいを持つ方からの相談支援の体制を充実していくことが急務となっている。本市の状況は。

**答** 大井総合福祉センター内の相談支援センターと就労支援センターを統合し、効率的な

相談を実施するが、最近の相談内容は多岐にわたり、本人だけでなく育児、貧困など世帯の複合的なニーズを的確に捉える必要がある。このため多機関の包括的支援を構築することが求められている。

### 介護予防を進めよう

**問** 介護保険の総合支援事業では、介護予防の役割が大きい。どのような方針で臨むか。

**答** 介護予防を継続するには、市民の自主的な取り組みが必要であり、介護サポーターとなつて市民が活躍できる地域ぐるみの活動を推進する。

### 大学、企業と連携するまち

**問** 大学、高校との包括的連携協定が進んでいる。何を指すのか。

**答** 協定を結ぶ大学等とは、文化・スポーツ、食育などそれぞれの特色を生かした取り組みを地域で展開するため、定期的な協議を行う。また学生からは共同事業で社会人としての心構えを学んだ等の感想をいただいている。

### お出かけサポータータクシー改善

足立志津子 議員

**問** 市外病院までの運行は2市1町で協議を行っているとは。

**答** 改善は、実証運行をもとに検討していく。

**問** 改善は、実証運行をもとに検討していく。

**問** 小規模事業者の受注機会拡大を

**答** 業者の偏りを防ぎ、小規模事業者の受注機会拡大のため、発注方法の改善を。緊急対応の仕事が

### 市独自の住宅リフォーム助成制度

**問** 補助額に対して経済効果が非常に大きい制度と考える。耐震補強助成と組み合わせるなど市独自の助成制度の創設を。

**答** 特定業種に限る補助制度は考えていない。

### 市内循環ワゴンの無料バス導入を

**問** 民間事業者を含む地域公共交通活性化協議会では、無料化の議論が出にくいのでは。

### 地域集会施設に市は責任を

**問** 自治組織の集会施設の維持、施設確保に



福岡中央公園での桜の植樹